

事前評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和 8 年度～令和 12 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（そうや） 宗谷森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の最北に位置する、1 市 8 町 1 村に所在する約 170 千 ha の国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区における国有林の総面積の約 56%が水源涵養を主な目的とした保安林に指定されており、利尻山を除いて標高 500m以下の周氷河地形による緩やかな丘陵地が主体となっている。東部では北見山地を水源とする猿払川、頓別川、徳志別川等が流下しオホーツク海に注いでおり、西部では幌尻岳山麓を源流とするサロベツ川が蛇行して天塩川へと合流する。沿岸部ではホタテやウニ、昆布等の水産業、内陸部では広大な牧草地を活かした草地型酪農が盛んであり、地域産業である漁業や農業の振興に資する観点から重要な役割を果たしている。また、本計画区は、高緯度地方の特色ある自然環境を形成しており、離島の固有種が生息する利尻島や礼文島、広大な高層湿原を有するサロベツ湿原は、利尻礼文サロベツ国立公園に指定され、日本最北の国立公園として多くの利用者が訪れており、保健休養の場として利用されている。また、ラムサール条約湿地に登録されているクッチャロ湖、サロベツ原野等国内有数の渡り鳥の中心地として知られる多くの湖沼があり、主要部は生物群集保護林に指定されていることから、今後も自然環境の維持が重要となる。</p> <p>森林の現況は、約 463 千 ha の流域面積に対して約 71%が森林となっており、このうち国有林の占める森林面積は 52%ほどである。林相は、トドマツ（72%）を主とした人工林が約 41 千 ha、トドマツ、エゾマツ等の針葉樹にミズナラ、センノキ、ダケカンバ等の広葉樹が混交する針広混交林の天然林が約 114 千 ha となっている。</p> <p>森林の蓄積は北海道の平均 158 m³/ha に対して 130 m³/ha で、人工林の齢級構成は 12 齢級をピークとする一山型であり、10 齢級以上の面積割合が約 77%を占めている。</p> <p>これらのことから、多面的機能の持続的発揮を図ることができる多様な森林づくりのほか、適切な間伐や主伐後の確実な更新による林地保全に配慮した森林づくりの実施など、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>さらに、効率的な路網配置、伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽、コンテナ苗植栽、機械下刈の導入などによる造林作業の省力化及び保育作業の低コスト化の取組を図りながら、森林資源の持続的な利用を一層推進して、引き続き</p>		

	<p>社会経済生活の向上とカーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現に向けて国有林の役割を継続的に果たすことが求められる。</p> <p>本事業ではこれまでの評価結果を踏まえ、地域の期待に応えるためにも広く、地域の林業関係者等の意見を聞きながら、森林の有する公益的機能を持続的に発揮するために必要な森林整備及びこれらを効率的に推進するための路網整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">森林整備</td> <td style="padding-right: 10px;">更新面積</td> <td style="text-align: right;">335ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-right: 10px;">保育面積</td> <td style="text-align: right;">7,873ha</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">路網整備</td> <td style="padding-right: 10px;">開設延長</td> <td style="text-align: right;">2.80km</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-right: 10px;">改良延長</td> <td style="text-align: right;">0.89km</td> </tr> </table> ・ 総事業費 2,781,604 千円（税抜き 2,528,731 千円） 	森林整備	更新面積	335ha		保育面積	7,873ha	路網整備	開設延長	2.80km		改良延長	0.89km
森林整備	更新面積	335ha											
	保育面積	7,873ha											
路網整備	開設延長	2.80km											
	改良延長	0.89km											
費用便益分析	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">総便益（B）</td> <td style="text-align: right;">18,669,685 千円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td style="text-align: right;">3,649,116 千円</td> </tr> <tr> <td>分析結果（B／C）</td> <td style="text-align: right;">5.12</td> </tr> </table>	総便益（B）	18,669,685 千円	総費用（C）	3,649,116 千円	分析結果（B／C）	5.12						
総便益（B）	18,669,685 千円												
総費用（C）	3,649,116 千円												
分析結果（B／C）	5.12												
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。</p>												
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 本計画区の人工林において、10 齢級以上の面積割合が 77%を占め、森林資源の充実により本格的な利用期を迎えている。そのため、路網整備と保育を中心とした森林整備と確実な更新作業を進め、効率的な森林整備の実施により林業・木材産業の振興等に寄与することが期待されている。また、基幹産業である農業・漁業の振興に資する水源涵養機能等をはじめとした森林の有する多面的機能の発揮や国立公園周辺の環境保全が求められている。以上により、本計画区の森林環境保全整備事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 今後の森林施業を見据え、利用区域内における施業の優先度を勘案した路網整備が計画され、高性能林業機械を適切に組み合わせた作業 												

	<p>システムの定着、伐採と造林の一貫作業等による伐採再造林の経費縮減、大型機械地拵や機械下刈の導入による労働強度の低減及び省力化が図られていることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 計画的で効率的な本事業の実施により、森林の有する多面的機能が持続的に発揮され、自然環境の保全や地域の基幹産業である農業及び水産業の振興や地球温暖化の防止等に寄与し引き続き効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規採択チェックリスト及び費用便益分析を踏まえて総合的かつ、客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的に計画されていると認められる。</p>
--	--

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和 8 年度～令和 12 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（あばしりとうぶ） 網走東部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の北東部に位置し、網走中部森林管理署、網走南部森林管理署管内の 2 市 9 町に所在する約 243 千 ha の国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区は、西端に石狩山地を構え、そこから釧北峠や美幌峠、斜里岳、知床連山と続く緩線に囲まれており、内陸部は、緩やかに連なる丘陵地とこれらに挟まれる小盆地がオホーツク海沿岸まで続いている。また、網走川、常呂川、斜里川をはじめとする河川が、丘陵地を下り、農地、都市部を潤しながらオホーツク海や沿岸部の網走湖、能取湖等の湖沼群に注いでいる。</p> <p>この地域は、知床及び阿寒摩周の 2 つの国立公園、網走国定公園、斜里岳道立自然公園に指定されるなど、森と湖と海が調和した特有の自然景観を有する地域である。特に知床半島地域は平成 17 年 7 月に世界自然遺産に登録され、国内外から多くの観光客が訪れており、生態系と生物多様性を維持し、原生的な森林環境を後世に引き継いでいくことが期待されている。</p> <p>また、河川が豊かな水量を供給することでホタテやサケを代表とする漁業や全道一の生産量を誇る玉ねぎをはじめとする小麦、てんさい、ばれいしょ等の畑作などに重要な役割を果たしている。</p> <p>森林の現況は、約 595 千 ha の流域面積に対して約 66%が森林となっており、このうち国有林の占める森林面積は 62%ほどである。林相は、トドマツ（65%）を主とした人工林が約 69 千 ha、トドマツ、エゾマツ等の針葉樹にミズナラ、シナノキ、カンバ類等の広葉樹が混交する針広混交林の天然林が約 148 千 ha となっている。</p> <p>森林の蓄積は北海道の平均 158 m³/ha に対して 213 m³/ha で、人工林の齢級構成は 12 齢級をピークとする一山型であり、10 齢級以上の面積割合が約 68%を占めている。</p> <p>また、森林面積の約 79%が水源かん養保安林を主とした保安林に指定されており、地域の水源林として機能するほか、基幹産業である農業及び水産業の振興に資する観点から保水機能を維持した適切な森林整備が求められる。</p> <p>これらのことから、多面的機能の持続的発揮を図ることができる多様な森林づくりのほか、適切な間伐や主伐後の確実な更新による林地保全に配慮した森林づくりの実施など、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>さらに、効率的な路網配置、伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽、コ</p>		

	<p>ンテナ苗植栽、機械下刈の導入などによる造林及び保育の低コスト化の取組を図りながら、森林資源の持続的な利用を一層推進して、引き続き社会経済生活の向上とカーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現に向けて国有林の役割を継続的に果たすことが求められる。</p> <p>本事業ではこれまでの評価結果を踏まえ、地域の期待に応えるためにも広く、地域の林業関係者等の意見を聞きながら、森林の有する公益的機能を持続的に発揮するために必要な森林整備及びこれらを効率的に推進するための路網整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>2,234ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>31,149ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>27.14km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>0.64km</td> </tr> </table> ・ 総事業費 22,001,834 千円（税抜き 20,001,667 千円） 	森林整備	更新面積	2,234ha		保育面積	31,149ha	路網整備	開設延長	27.14km		改良延長	0.64km
森林整備	更新面積	2,234ha											
	保育面積	31,149ha											
路網整備	開設延長	27.14km											
	改良延長	0.64km											
費用便益分析	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>総便益（B）</td> <td style="text-align: right;">90,115,395 千円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td style="text-align: right;">27,397,689 千円</td> </tr> <tr> <td>分析結果（B／C）</td> <td style="text-align: right;">3.29</td> </tr> </table>	総便益（B）	90,115,395 千円	総費用（C）	27,397,689 千円	分析結果（B／C）	3.29						
総便益（B）	90,115,395 千円												
総費用（C）	27,397,689 千円												
分析結果（B／C）	3.29												
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。</p>												
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 本計画区の人工林において、10 齢級以上の面積割合が 68%を占め、森林資源の充実により本格的な利用期を迎えている。そのため、路網整備と保育を中心とした森林整備と確実な更新作業を進め、効率的な森林整備の実施により林業・木材産業の振興等に寄与することが期待されている。また、基幹産業である農業・漁業の振興に資する水源涵養機能や生物多様性保全など、森林の有する多面的機能の発揮が求められている。以上により、本計画区の森林環境保全整備事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 今後の森林施業を見据え、利用区域内における施業の優先度を勘案した路網整備が計画され、高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着、伐採と造林の一貫作業等による伐採再造林の経費縮 												

	<p>減、大型機械地拵や機械下刈の導入による労働強度の低減及び省力化が図られていることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 計画的で効率的な本事業の実施により、森林の有する多面的機能が持続的に発揮され、点在する自然公園等の周辺の環境保全や地域の基幹産業である農業及び水産業の振興、地球温暖化の防止等に寄与し引き続き効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規採択チェックリスト及び費用便益分析を踏まえて総合的かつ、客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的に計画されていると認められる。</p>
--	---

事前評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和 8 年度～令和 12 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（いぶりとうぶ） 胆振東部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 胆振東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の南西部に位置する 1 市 2 町に所在する約 63 千 ha の国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区には、北西に樽前山やオロフレ山、北東には夕張山地が連なり、中央部には勇払平野が広がっている。湖と森と火山が織りなす優れた景観から、支笏洞爺国立公園に指定されており保健休養の場として多くの利用者が訪れるため今後も自然環境の維持が重要となる。また、この地域ではウポポイ（民族共生象徴空間）が所在し、アイヌの人々や自治体等により、伝統文化を伝承する取組等が活発に行われており、森林を活用する伝統的なアイヌ文化にも配慮するために、白老町と共用林野契約を締結しているなど、森林の文化的な機能にも着目する必要がある。</p> <p>一方、南側は長く海岸線が太平洋に面しており、スケトウダラ刺網、サケ定置網、ホッキ貝漁業などの水産業が盛んであり、地域の水源地として海洋域にも重要な役割を果たしている。</p> <p>森林の現況は、約 234 千 ha の流域面積に対して約 69%が森林となっており、このうち国有林の占める森林面積は 39%ほどである。林相は、トドマツ（57%）を主とした人工林が約 22 千 ha、トドマツ、エゾマツ等の針葉樹にミズナラ、イタヤカエデ等の広葉樹が混交する針広混交林の天然林が約 37 千 ha となっている。</p> <p>森林の蓄積は北海道の平均 158 m³/ha に対して 132 m³/ha で、人工林の齢級構成は 11 齢級をピークとする一山型であり、10 齢級以上の面積割合が約 73%を占めている。</p> <p>また、森林面積の約 94%が水源かん養保安林を主とした保安林に指定されており、特に基幹産業である水産業の振興に資する観点から保水機能を維持した適切な森林整備が求められる。</p> <p>これらのことから、多面的機能の持続的発揮を図ることができる多様な森林づくりのほか、適切な間伐や主伐後の確実な更新による林地保全に配慮した森林づくりの実施など、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>さらに、効率的な路網配置、伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽、コンテナ苗植栽、機械下刈の導入などによる造林及び保育の低コスト化の取組を図りながら、森林資源の持続的な利用を一層推進して、引き続き社会経済生活の向</p>		

	<p>上とカーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現に向けて国有林の役割を継続的に果たすことが求められる。</p> <p>本事業ではこれまでの評価結果を踏まえ、地域の期待に応えるためにも広く、地域の林業関係者等の意見を聞きながら、森林の有する公益的機能を持続的に発揮するために必要な森林整備及びこれらを効率的に推進するための路網整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>588ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>10,985ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>6.40km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>0.06km</td> </tr> </table> ・ 総事業費 2,649,422 千円（税抜き 2,408,565 千円） 	森林整備	更新面積	588ha		保育面積	10,985ha	路網整備	開設延長	6.40km		改良延長	0.06km
森林整備	更新面積	588ha											
	保育面積	10,985ha											
路網整備	開設延長	6.40km											
	改良延長	0.06km											
費用便益分析	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>総便益（B）</td> <td style="text-align: right;">28,832,353 千円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td style="text-align: right;">3,837,640 千円</td> </tr> <tr> <td>分析結果（B/C）</td> <td style="text-align: right;">7.51</td> </tr> </table>	総便益（B）	28,832,353 千円	総費用（C）	3,837,640 千円	分析結果（B/C）	7.51						
総便益（B）	28,832,353 千円												
総費用（C）	3,837,640 千円												
分析結果（B/C）	7.51												
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。</p>												
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 本計画区の人工林において、10 齢級以上の面積割合が 73%を占め、森林資源の充実により本格的な利用期を迎えている。そのため、路網整備と保育を中心とした森林整備と確実な更新作業を進め、効率的な森林整備の実施により林業・木材産業の振興等に寄与することが期待されている。また、基幹産業である農業・漁業の振興に資する水源涵養機能など、森林の有する多面的機能の発揮が求められているほか、樽前山などの火山の影響により地質的に浸食や崩壊が発生しやすいことから、森林の保全に対する要望が高い。以上により、本計画区の森林環境保全整備事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 今後の森林施業を見据え、利用区域内における施業の優先度を勘案した路網整備が計画され、高性能林業機械を適切に組み合わせた作業 												

	<p>システムの定着、伐採と造林の一貫作業等による伐採再造林の経費縮減、大型機械地拵や機械下刈の導入による労働強度の低減及び省力化が図られていることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 計画的で効率的な本事業の実施により、森林の有する多面的機能が持続的に発揮され、土砂災害の防止や地域の基幹産業である農業及び水産業の振興、地球温暖化の防止等に寄与し引き続き効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規採択チェックリスト及び費用便益分析を踏まえて総合的かつ、客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的に計画されていると認められる。</p>
--	--